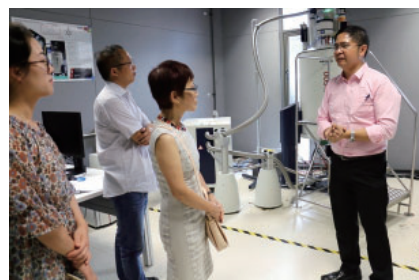


VISTEC との学術交流協定締結

2018年9月3～5日の日程でタイの VISTEC (Vidyasirimedhi Institute of Science and Technology) を訪問し、学術交流協定とダブルディグリープログラム (DDP) 協定を締結してきたので報告する。VISTECは2015年に設立された非常に新しい研究所であり、研究所に併設した大学院大学を運営することによってタイ中から学生を集めているという意味で総研大と非常に似た構造を有している。ただし設立はPTTと言うタイの石油会社によるもので、その台所事情は原油価格にも左右されるようである。とはいえ、VISTECの学生は他のタイの大学院生が受け取る奨学金に比べると常に倍額の援助を受けており、そのため優れた大学院生がタイ中から受験してくるといふ。またタイ王室からの支援も得ているということ、その敷地面積はおよそ百万平方メートルとのことである。設立時のPTT 総裁だった Pailin Chuchottaworn 氏は東工大の出身で、設立の経緯は東工大のインタビュー記事 (https://www.titech.ac.jp/outreach/community/alumni_pailin.html) に載っているので興味のある方は参照されたい。所長の Jumras LIMTRAKUL 教授は以前 Mahidol 大学に勤めていた計算化学の研究者であ



VISTECの共通機器類 (600MHz-NMR) の説明を受ける長谷川学長。

り、分子研の江原教授とは永らく共同研究等を通じて親交があったものである。近年、筆者も VISTEC の Vinich PROMARAK 教授とタイの会議で知り合いになり、学生留学を通じた共同研究を展開している。VISTEC の学生は半年～1年の留学費を奨学金の一部として持っているケースが多く、このような学生サポートシステムは国際共同研究推進には非常に有効である。今回はこのような共同研究体制を江原グループ・山本グループ以外にも広げべく、学術交流協定の覚書 (MoU) 締結を行った。

9月5日の調印式は VISTEC で年1回開催される国際ワークショップのオープニングとして執り行われた。総研大からは長谷川学長、VISTEC 側は LIMTRAKUL 学長がサインを行い、筆者と PROMARAK 教授が証人としてのサインを行った。先方はまだ始まったばかりの研究所であるが、すでに京大 iCeMS や上海大学とも協定を締結しており、非常に手慣れた印象であった。なお、調印式には総研大本部の眞山講師と分子研の吉岡助教 (当時) も参加した。出席予定だった飯野教授は折からの台風で飛行機が欠航となり、参加出来なかったが、意中の共同研究先があるとのことなので、今回の MoU に基づいて交流をさらに進めて頂けたらと思う。さて今回の協定締結で、今までと異なる点が二つあるので、それも記しておきたい。ひとつは DDP 制度である。これは上に述べたような留学生に対して追加のインセンティブを与えるもので、総研大と VISTEC 双方の学位を取得出来るよ



調印式の様子

うにする制度である。これまで総研大や自然科学研究機構の中期計画において、複数学位制度の整備を進めるといふ目標があったが、分子研二専攻として明文化された協定の締結はこれが初めてである。VISTEC で実績が積み重ねられれば、現在試行段階にあるチュラロンコン大学などでも同様の制度を開始出来る可能性があるの、これから機会を捉えて宣伝していきたい。もうひとつ、今回から始まったこととして、葉山本部の URA が積極的に関与して頂いたことを挙げたい。特に DDP 覚書のたたき台は内川助教が作成し、具体的な運用面などの調整は5月に行われた事前打合せ、今回の調印式ともに眞山講師に担当頂いた。このような作業はこれまで主に担当教員が個人で担当していた場合が多かったが、このように URA に支援して頂けると非常に助かるという印象である。この場を借りて、URA のお二人には謝意を表したいと思う。

以上、簡単ではあるが VISTEC との学術交流協定締結の報告としたい。VISTEC には早稲田大学から移籍した小川誠教授も居り、様々な形での協力関係構築が可能と思われる。興味のある方は直接でも、あるいは筆者を通してでも構わないので、先方の研究者とぜひ交流を進めて頂きたい。

(山本 浩史 記)